コンテナ苗の特徴及び現状について

コンテナ苗

〇マルチキャビティーコンテナやサイドスリット型コンテナなどの専用容器で育苗
〇ビニールハウス内での育苗が可能

普通苗

苗畑での育苗

【コンテナ苗の特徴】

◎ 生産作業の効率化・労働負荷の軽減
- 育苗ベンチの利用
- 空気根切り※をするため、根切り作業が不要
- 播種や土入れ作業等の機械化が可能

※広く開放しているコンテナの底面にまで達した根が、空気に触れることにより成長が止まる現象を利用した根切りの方法

◎ 植栽作業の効率化
- 均一的な形状の根鉢であるため、鍬のほか、専用の植栽器具を使用することで、誰でも簡易な植栽が可能

◎ 植栽時期の拡大
- コンテナ苗は、裸苗とは異なり、根鉢があることで乾燥ストレスの影響を受けにくいことから、裸苗の植栽に適さない時期も含め幅広い期間で植栽が可能※。
- 植栽時期が広いことから、伐採と造林の一貫作業に用いやすく、造林コストの低減が期待。※寒冷地の冬期や極端に乾燥が続く時期を除き、通年植栽可能

一貫作業システムによる低コスト化

〇伐採・搬出に使う車両系の機械を活用し、地拵えや苗木運搬を行うことで、造林コストの低減が図られる。